

全佛通信

七月号

発行所 全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノ木町一丁目三
電話 54-0311

発行人 岩野真雄
編集者 高橋忠雄
印刷所 栄昌堂

張主 過去を顧み今後に望む

全日仏再発足に際し

全日仏は去る六月十七日の常務理事会を最後にして愈々一切の準備を完了して新法人切換えへのスタートを切った。論ずべきものは論じ、手を尽くすべきものは手を尽くしたという感じがこの日の常務理事事は仲々印象的でさあつた。事は当局の許可指令をまつて新法人としての再発足の仕事が始められるだけである。

只こゝで考えられねばならぬことは、前号でもおぼえておいたように改組を機会に更に全日仏存在性の意義を再確認すべきことである。願れば昭和廿九年幾多の困難と闘い乍ら生み出された全日仏の意図は旧仏連の各宗共通事項の処理と親睦機関として、各宗各派、地区仏教会、僧俗各団体が縦横に一致協力して国の内外に仏教を推進することであつた。その願いは見事達成せられて、爾来三年一才二回世界大会以来五年一その理想のもとに大きな夢を持つて邁進して来た。

その当初教界のある一部には「全日仏は半年でつぶれる」といふ言すらあつた。然し之を見事に裏切つて今日まで存続した。実際出發以來全日仏は苦難の連続であり関係者の努力は大いなるものがあつた。夫々の単位団体の活動を明らかにしながら全一仏教の在り方を明らかにして来たことは仏教史上曾てこれを見なかつたことであつた。国際仏教の伸展、国内組織としての活動への拍車が仏教の高揚と今

後の全仏教界の動きへの目標を明示したことの功績は等しく認められるところであつた。然し三年五年の才月には自ら可能不可能の限界が明かにされ、又気魄に於ても必ずしも新鮮にして革新的な空気の充実のみとは云い得ぬものがあつた。これにはこの運動に対する感覚と気魄による不断的努力と推進が果して行われて来たかの反省も必要であらう。断えず動きを全国的の視野に立つての目的の拡大強化への努力は、一、二の人士の良くなるだけでは不十分。之は飽くまで各方面の熱情と誠意の合作でなければならぬ。凡ゆる建設的意見と正しき批判が断えず全日仏に寄せられ全日仏亦之に対して一々誠意ある行動と答弁とがなければならぬ。後半の全日仏では之について相当欠ける点もないでなかつた。

然しこの全日仏の大いなる理想の完成は、今一段の自覚と努力によつて達成されるものと信じられる。茲に新たに財団としての再出發の意義がある。加盟各団体が深い自覚をもつて、新役員を送り事務局亦一新するものもその展開の上が必要であらう。過去に樹立した全日仏としての実績を生かし再び旧仏連の存在になることは絶対に避けねばならない。今こそ中央、地方を問わず全日本仏教界の人々は全日仏の再発足に對して理想に燃ゆる眼をもつて見守らねばならぬ。要はこの混沌たる社会の實情に照

墓地管理権は誰のものか?

仙台市墓地運営委員会 断乎反対運動に立上る

去る三月廿九日公布された仙台市有墓地条例を繞つて仙台市当局を相手として立ち上つた仙台市仏教会墓地運営委員会(委員長清野学道氏)の「墓地経営管理権確認及び同管理條例取消の訴訟」は目下地元仙台市に於て、表面は一応静けさを保ち乍ら裏面は色々な激流がからみ合ひ乍ら夫々の目的達成のため静かなる斗争を続けてる様である。一方市仏教会側は県仏教徒連盟と不二一体の関係をとり乍ら中央官民への働きかけを活発に展開し、着々奏功しつつあるようである。

全国的解決を画す

これより先県連及び市仏を代表して上京各方面に働きかけていた墓地運営委員会代表は木村氏を陣頭に全日仏、文部省、国会等活発に陳情した結果去る五月十八日の衆議院文教委員会で熊本県出身の坂田道太代議士の質問によつて本問題はとり上げられ、近藤宗務課長、齋藤参事官等夫々答弁をする段階にまで持込む事に成功した。

これより先全日仏もこの事件の発生と共に木村氏等の陳情をうけ財団切換中の混雑時ではあつたが岩野局長、小笠原局長取敢ず本問題を重要視し、全仏として之を

絶対等に等視出来ないとの立場から直に当局に對する左の如き陳情書を作成提出するかたわら文部当局を木村氏と共に訪問して夫々積極的手段を展開し始めた。

一方全日仏ではかゝる市条例公布という特殊な事例はとも角昭和二十二年四月発せられた問題の「次官通牒」(同年四月二日発令才二十四号、内務文部次官発)の各都道府県の取扱実情、之に伴う各仏教会等のとられた処置等の実情を悉知する為全国各都道府県仏教会に對してその調査方を依頼すべく目下大重でその準備を進めている。

従つてその結果全国各府県の実情が判明するに従つて、意外な事実が明るみに出され、府県当局は勿論府県仏教会並びに寺院関係者に重大なる動きがあるものと各方面

「宗二十四号内務文部次官通牒」再発行若くは確認方に関する件新憲法制定によつて政教の分離がはつきりと打出されましたが、昭和二十二年法律才五十三号「社寺等に無償で貸与しある国有財産の処分に関する法律」が施行されました。之によつて地方公共団体に對し「宗才二十四号内務、文部次官通牒が発せられましたが、同通牒が発せられた時は、通信交通共に極度に混乱しており、加うるに終戦直後のことゝ通牒等に注意を払うことも忘れられ、十分末端に浸透し難い事情にあつたのであります。従つて不知不識の内に所定の年限を経過してしまひ、ために各地に於て困難なる問題を惹起せしめてゐる現状であります。こゝに於て再度同通牒を發行し若しくは確認方をお願いし問題を解決せしむるよう特段の御考慮を願ひ度、こゝに事情を申述べ諸願申上げることでありませう。右諸願致します。

全日本仏教会

請願書

昭和二十二年四月二日発令才二十四号、内務文部次官発の次官通牒(地方自治体の所有になつてゐる土地も寺院境内地無償譲与になつて旧所有者へ返還することが出来る)が宮城県は、四月七日受付け同月廿五日には県下各市、地方事務所送達済みになつてゐるのに仙台市当局はそれを未端各仏教会寺院等へ流すことを怠つてゐた。それ自体相当重大な問題であるのに、更に昭和卅二年三月廿九日

仙台市の実情

歴史と伝統を無視した

突如公布された「仙台市有墓地条例」が重大なる問題を惹起したものである。即ち元仙台藩主その他より寄進等という特殊な因縁と歴史とを有する境内墓地を、今回突然一方の市条例によつて所有権と管理権の全てを奪ひ、且今後毎年永久に墓地使用料を徴集するといふことは「境内墓地の旧慣を全く蹂躪し、且本会並びに市内各寺院、檀信徒總体の要望をすべて無視したものの」(四月廿七「次頁五段へ

訪中日本仏教親善使節団

着々準備進行

團長副團長等決定す



團長 高階瑞仙



副團長 中野義照



同 永野鎮雄



同 佐々木泰翁



秘書長 三谷会祥



五十嵐賢隆

既報の通り全日仏派遣中国訪問使節一行は最近の中国仏教協会からの連絡により更に訪中時期が一ヶ月間ずれて九月初旬となつたので去る十日午後一時より全日仏事務局に於て打合会を開催した。当日は各代表参集阿部国際局長挨拶の後各々自己紹介が行われその後左記各項に付て活発なる討議研究が行われ、午後三時半無事終了した。

その際團長以下の人事に關しては一応当局案を準備委員として詳細は準備委員に一任する事になつた。

準備委員 菅原忠慶、佐瀬淳光、三谷会祥、中瀬教篤、五十嵐賢隆、船口暉子の各氏、尚当日協議された問題は左の通りであつた。

1. 現地慰靈法要執行の件(南京又は北京)
2. 邦人未帰還者調査の件
3. 邦人遺骨調査の件
4. 贈呈品に關する件
5. 「日中仏教誌」特集の件
6. アルバム作成の件
7. その他当日の出

を準備委員として詳細は準備委員に一任する事になつた。



菅原忠慶



竹村教智



塚本善隆



中瀬教篤



半田孝海



山田無文



佐瀬淳光



牧田諦亮



村瀬玄妙



船口暉子

智、竹田淳照、中野義照、中瀬教篤、半田孝海、牧田諦亮、三谷会祥、佐瀬淳光、村瀬玄妙、船口暉子の諸氏

準備委員会は去る十七日午前十時より築地本願寺階上で開かれかねて問題になつて来た諸件に付て午後二時まで熱心な研究協議が行われた。開会当初日中友好協会の浅野氏から最近の中国事情に就て具体的に説明が有り終つてから主として左記各項に關し夫々一応の結論を出して準備を一步前進させた。

記
1. 名称 訪中日本仏教親善使節団
2. 訪中団の構成
○團長 高階瑞仙(曹洞宗管長)
○副團長 中野義照(高野山)
永野鎮雄(本派本願寺)
佐々木泰翁(全日仏)

○秘書団
秘書長 三谷会祥(日蓮宗)
渉外 五十嵐賢隆(東京仏教団)
牧田諦亮(浄土宗本派)

○庶務 佐瀬淳光(管長秘書)
中瀬教篤(日蓮宗)
会 計 三谷会祥(〃)

3. 邦人遺骨の送還依頼は国内に於て各宗各団体による調査を徹底して資料を豊富に携行すること
4. 訪問中適当な機会に日中兩國戦争犠牲者慰親平等合同慰靈法要を行いたき旨を中国仏教協会へ連絡すること
5. 「日中仏教」特集は日中仏教交流の各会へ依頼作成すること

ウ・チャントン氏来日
南北仏教交流問題で話題をまいてる日本釈尊正法会の招きにより、ビルマ国ブツダササナカンシルのウ・チャントン氏(ビルマ最高裁判事)は夫人同伴の上、六名のビルマ比丘と共に去る十一日午後九時二十分羽田着のSAS機で来日した。空港には全日仏から阿部総長初め各局部長ら及中山常務理事等が出迎えた。同氏の今回の来日の目的は京都に事務所を持つ日本釈尊正法会の目的の一つであるビルマ式ボゴダ、戒律堂等の建設その他に關して同会側と打合せの爲である。全日仏としては正法会問題には一切タッチしないと云う静観態度をとつて居るが、ウ・チャントン氏の来日を機に全日仏の正法会に対する眞の態度を表明する意向であるが、一方同問題を離れて、同氏の歓迎会を七月初旬東京築地本願寺で持つ様計畫されている。

東大中村博士等講演会盛ん
去る七日午後三時半から東大仏青では今回恩賜賞を受けられた中村元博士及二年半に亘るインド留学を終え帰朝した駒大講師高崎直道氏による講演会を東大文経二号館三十七番教室で開催盛大であつた。

「ゴータマブツダ」試写会開催
在日インド大使館の好意により提供される釈尊の一生涯を画いたインド政府映画部製作の仏蹟記録映画「ゴータマブツダ」の上映に付て全日仏では其後大使館側と接渉していたが此程話が出来ると、来る七月二日(火)午後五時から東京有楽町読売会館ホールで全日仏、東京仏教団、アジア菩薩國民運動中央本部、アジア協会、アジア友の会、の各団体共催の下盛大に開催する事になつた。
なお当日駐日インド大使チャンドラ・S・チャー氏が開会に先立

〔前頁より〕日声明)としてあくまで反対運動を展開せんと意気込んで居る。茲に於て全日仏県連及び仙台市仏教会は直に対策委員会を開き「市仏墓地運営委員会」を結成し再三研究討議の結果「仙台市有墓地経営管理権確認及び同管理条例取消の訴訟」を原告市内百拾ヶ寺寺院として、目下提起している。市仏対策委員会の本訴訟の今後の見透しその他に付て木村氏は左の通り語つた。

「この訴訟は必ず勝つて見えますよ。全市寺院一丸となつて目的達成に努力していただきます。今度位結束出来たことはないですよ。私共の念願は単なる仙台市の問題でなしに之を全国運動にまでも上げてゆく決意です。そのためには是非共全仏の力を貸してもらいたいですね。否全仏自身の問題として之をとり上げる事が全仏組織を作り上げる最も良策だと信じていますよ。それは先ず全仏に「墓地対策委員会」を設置して直に活発な運動を展開してもらいたいものです。云々」と。

を繞つて活発な論議が行われたが仲々結論が得られず結局左記各氏

席者左の通り
高階瑞仙(代) 菅原忠慶、竹村教

タイ、カンボチャ派遣代表団

帰朝歓迎会盛ん

銀座三笠会館で

去月中旬タイ及カンボチャ仏紀祝典に日本仏教界並びに政府を代表して参列し併せてインド、ネパールの仏蹟巡拝をして帰朝された代表一行の歓迎会が去る九日午前十一時より東京銀座三笠会館で各代表並びに仏教会知名の士数拾人参集のもと極めてなごやかに開催された。

会は先ず阿部総長並びに長井副会長の歓迎の辞によつて始まり続いて出席各代表大谷光紹、重永澄藤、草葉隆円の各氏夫々簡単な所感を述べたる後午餐、懇談に入り出席各氏より夫々質問等行われなごやかなる裡にも国際仏教親善のためにも極めて有意義なる会合であつた。

これらの発言中今後の国際仏教交流のため特に参考となるものを要記すると左の通りである。

▲南北仏教の交流ということ
このことは現在国内でも色々話題を投げかけている様だが東南亜諸国で多少の差異はあるがビルマ等の如きは殊にはつきりしている事は決して日本の仏教に学ぼうという意図は全くなく、飽く迄自国の仏教をそのまゝ、日本に移植し、日本国内にその勢力を拡大させようという意図である。

但タイ国は大分様子が異りビルマほど強烈なものはない様だ。

▲日本在外公館員に仏教知識をもたせることの必要に就て
この件に関しては今回の式典のみならず、従来でも屢々問題になつて来たが、仏教国に派遣されて

いる出先の大使館の人々が意外に仏教常識とも云うべき事でも知らず、ために時々相手方の感情を害し又は大事な国家式典に欠席したり仲々複雑な問題を投げかけて



【写真】 歓迎会場で挨拶される大谷光紹師

いる様だ。依つて今後は少く共基本的知識及び信仰の内容等を身につけることは必須の条件であると思う。この件に関しては仏教会から当局へ強い要請をなすべきであらう。



カムボディア国において
ア紀二千五百年を記念する
祭典が開かれるにあたり、
全日本仏教会
を代表してこれに列席し、大谷會長親下のメッセージ、聖徳太子の尊像、其他の品々を、國王陛下並びに、政府の要路者に贈呈する任務を、とどおりに果し得たことは、私の光榮とするところで

カンボチャに使用して

久保田正文

祭典は首府プノンペン市において、十六ヶ国の政府及び仏教会代表を迎えて、五月十二日から十八日までの一週間にわたつて行われたが、その前日、十一日午後五時半から、國王謁見の儀があつたから、實際は、八日間にわたる盛儀であつた。

文字通り、国を挙げての盛儀であつたが、それは、この国においては、仏教が国教であるばかりでなく、王位を象徴する、我國の三種の神器に相当するものが、仏舍利であるためであつて、皇室をはじめ、国民のほとんど全部が、熱心な仏教徒であるからであらう。

祭典は、五月十二日の開会式で始まつた。これは、王位の象徴たる仏舍利を、会場中央の宝塔に移す行列と儀式である。これは、日本人の常識とは、だいぶ、異つた趣のものであつた。

この日の午後は、博物館と僧侶のみのための病院を視察した。夜十時から、王室舞踊団と国民劇場との合同演出による伝劇があつた、翌日の午前三時頃に終了した。

た。

五月十三日は、午前七時五十分から、参加各国の政府代表によるメッセージの朗読があり、十時半より午後四時十分まで休憩し、午後四時二十分から、各国の仏教代表による、メッセージの朗読があり、夜七時五十分から、仏陀の降誕、成道涅槃を記念するウエサカ祭が行われた。

五月十四日は、早朝四時二十分から、特に、仏陀の成道を記念する式典が挙行せられ、折から月蝕があつて、感銘深いものであつた。

午前九時、各国の代表は、政府の飛行機二台に分乗して、アンコールワット、及び、アンコールトムの見学に出発した。この夜は、シミリアップ市のグラントホテルに宿泊する。

五月十五日、七時三十分出発、近郊の遺跡を見学し、再びグラントホテルに宿泊。

五月十六日、午前九時出発、再び、首府プノンペンに帰る。

午後四時半、王室の仏堂に日本でいえば賢所・シルババゴダに参拝し、午後八時から、國王及び王后主催の正式晩餐会があり、終つて、王室舞踊団の舞樂があつた。

五月十七日、午前十時メコン川の畔にある農学校を視察し、午後八時より、首相ノロドム・シヤヌック殿下主催の晩餐会があつた。

五月十八日、午前七時より、仏舍利をもとのバゴダへ奉還する儀式があり、午後三時四十分より閉会式が挙行せられ、全祭典が終了したのである。

この国の面積は、我國の北海道の二倍ぐらゐであり、全人口は、東京の約半分であるとのことである。政体は、立憲君主政体であるが、實際は、近代国家というよりも、お伽話にでも出てくる王国といった感じを受ける。それは、この国には、汽車も、飛行機も、自動車もあるけれども、全般の産業は、産業革命以前の状態であるといつてよいからである。

しかし、考えてみれば、この国は、八十年余りにわたつて、他国に支配せられ、完全な独立を得てから、まだ、三年である。したがつて、すべてはこれから、という印象を受ける。明治初年の我國も、このような有様ではないだろうか。國王を中心として、國民が一丸となり、新興の氣運にもえているというべきであらう。

仏教僧侶も、國民の尊敬を受けてはいるが、その在り方は、上座部仏教の典型的なもので、厳格な戒律主義で終始している。それはそれとして尊敬に値するが、この国が、近代国家へと発展するにつれて、深刻な社会問題等にも、当面向つてなるにあらうが、そのような場合に、国教であるだけに、仏教の在り方も、必然的にかわつてくるのではなからうか。僧侶の中でも、進歩的な人々は、すでに、これを予見し、日本仏教について学びたいといつてゐるものもあつた。

この国、朝野の人々が、日本に期待するところは、非常に大きなものがある。首相のシヤヌック殿下は、日本を兄として、その指導を受けたいといつてゐるが、これは、単なる外交辞令とは思へなかつた。

東南アジアと日本。これを、一つの信仰共同体とし、運命共同体とする大きな仕事は、我等を待つてゐるといふべきであらう。

八月六日を期し 核爆発実験禁止運動

全国寺院で梵鐘を打ならそう

全日仏では核爆発実験禁止運動

についてはかねてより全機能をお
げて本運動の徹底を期すべく、英
米、ソ連各国へ夫々声明書等を発
送して真剣なる運動を続けて来た
が、今般日本宗教連盟(理事長芳
村忠明氏)加盟の一団体として同
連盟の方針に協力し、来る八月六
日午前八時十五分を期して「原水
爆禁止の祈り」「原爆被害犠牲者
慰霊の祈り」を捧ぐる為ら夫々の
宗派団体等の方式により梵鐘、太
鼓等を打ちならして日本全国にこ
の運動の精神を喚起せしめること
になった。

日本宗教連盟

日本宗教連盟は、先に各国の元
首、指導者及び宗教団体等に原水
爆の使用、実験の禁止についての
声明書と書簡を発送し、世界に訴え
て来たのでありますが、松下特使
の報告にもありますように、日本
人全体が更に原水爆に関する科学
的な知識をもたねばならぬと共に
国民のすべてがその目的を達成す
るために、辛抱強く不断的努力を
なす必要があることは今更申すまで
もありません。

こゝに於きまして、本連盟は各
宗教団体がその特有の信仰儀式に
基いて、左記の運動の展開を実践
せらるゝよう要請する次才で御座
います。なお、この運動について
貴連合会より傘下各教団並びに海
外関係の向きにも周知方を御配慮
下さいますよう御願ひ致します。

原水爆禁止抗議に

仏教代表 半田孝海師

原水爆禁止を強く英米ソ三国へ
アツピールする為、国民使節団の
仏教界代表として半田孝海大僧正
(長野県仏会長)は七月四日空路
羽田を出発する事に決定したが、
それに先立ち七月一日中野公会堂
に於て原水爆禁止日本協議会が主
催して同使節団の壮行会を開く事
になったが、各界代表の挨拶に混
つて全日仏副会長梶尾辨匠老師が
激励の挨拶を行う事になった。な
お半田代表には全日仏会長のメッ
セージが托される。

世界最大の仏旗、

ネパールの世界仏教徒会議に日
本代表の一人として出席した鈴木
錦吾氏(名古屋市長)は帰国後熱心
に各方面を訪ねて独特のねばりと
熱情とで仏教運動を展開していた
が、最近各方面の浄財を得て、縦
五間、横七間と云う大仏旗を作り
去る二十一日朝名古屋市堂王山日
泰寺納骨堂前で披露して参拝客を
驚かせた。鈴木さんはインドのネ
ール首相が来日した時は之をもつ
て歓迎すると張切つてゐる。

曹洞宗 P.R 映画完成す

曹洞宗教化部ではかねてより放
送映画等による教化、宣伝を画し
て懸命の努力をしていたが今回西
川発声映画研究所(西川豊氏)と

日本仏教保育協会

夏期保育講習会開かる

日本仏教保育協会主催の才二十
五回夏期保育講習会は、本年も東
京、京都の二ヶ所で左記要項によ
り盛大に開催されることになった
その科目及び講師陣は年毎に充
実して来るので本年度も参加者多
数を迎えること、今から事務局で
は張り切つて準備を進めている。

記

- 一、期日 来る七月二十三、四、
五日
- 一、会場 東京宝仙学園講堂及体
育館、京都家政学園講
堂及体育館
- 一、科目 教養講座、幼児の歌唱指導、保
育リズム、お遊び指導、仏教童話
仏教保育等

名古屋にあらわる

教化部との合作で、発声宣伝映画
「こゝに道あり」を完成し、之が
試写会が去る廿六日午前十時より
芝公園女子会館内で行われた。こ
の映画は大本山永平寺、総持寺の
内外紹介と曹洞宗の概要を宣伝せ
んとしたもので約廿五分間に亘り
仲々優秀な出来ばえで、同宗始め
ての試みとしては成功と云われる
だろう。宗門関係の各要人約三、
四十人参集、試写終了後座談会が
行われ仲々活発であつた。因みに
今後宗務庁の宣伝カーと共にこの
フィルムは全国を巡回して活躍す
るであろう。

セイロンから菩提樹の苗

セイロン政府では過般岸首相一
行が訪問の際、菩提樹の苗樹十數

鉢をおみやげとしてわが仏教会へ
贈られたので今般フオンセカ大使
より正式に本会へ贈呈された。尙
同苗樹は発育の完全を期するため
一時小石川植物園に保管してもら
い、追つて全仏より各団体等へ贈
られる事になつてゐる。

なお訪米中の岸首相が出発前駐
日セイロン大使との話合ひの席上
この話がもち出され、是非菩提樹
をと云う事になり、岸首相の帰国
後直ちに全日仏を通して苗樹が贈
られる事になつた。

鬼原素俊氏個展白木屋で開催

ネパールに於ける才四回世界仏
教徒会議に出席後日本代表団と別
れ五ヶ月の間インド各地の仏蹟な
どをスケッチして今春帰国した鬼
原素俊氏の個展が全日仏の主催
外務省及インド大使館の後援で下
来る七月二十三日から廿八日まで
東京日本橋白木屋六階画廊で開催
される事になり、インドのマドラ
ス、カチラホ、エローラ等で画い
た作品は見るべきものがあり今か
ら大きな期待がかけられてゐる。

東京東本願寺にて

海外物故者慰霊法要

日本放送協会(NHK)では一
昨年以來全日仏の後援の下、海外
邦人物故者慰霊法要の実況を北米
西部南米、ハワイ方面向けに国際
放送を行つて来たが、本年も七月
十五日の孟蘭盆を期して慰霊法要
の実況放送を行う事になつた。な
お本年は東京浅草の東本願寺にて
七月五日頃実況を収録する事にな
つており導師には同本願寺輪番重
永潜師が予定されている。全日仏
国際局では過日取急ぎアメリカ、
ハワイ方面にある浄土真宗本派、
真宗大谷派、浄土宗、曹洞宗、日
蓮宗等各宗別院あてに一九五六年
七月以降一九五七年六月迄の物故

者名(法、俗名)を通知してほし
い旨航空便で依頼した。なお昨年
の結果は非常に反響があり是非繼
続してほしい申入れが寄せられて
ゐる。

〼〼と〼〼がきき

〼〼財団法人全日仏のすべての
準備整ひ、六月中旬一切の書類手
続を完了した。〼〼なんでもない事
の様だが従来の役員を二応全員そ
のまゝでと云う総会の決議に従つ
て書類を準備するのだから仲々大
変である。〼〼エライ人ほど書類が届
かない、これから財団ともなると
運営の困難さが思われる。係りは
汗だくで頑張つて漸くゴールイン
と云うところ、ごころろさんでし
た。〼〼これが大変だ、新仏教会
がそのわらうところに達するため
には、この際全仏教界の協力と団
結とが望まれる所以、それなくし
ては反つて形が化してしまふだ
らう。〼〼ビルマ仏教会のウ・チャン
トン氏が来日され、各地で視察と
講演とをやつてゐる。〼〼之は正法会
の招請でやつて来たのだが全日仏
でも当然国際親善の立場で歓迎す
べく諸般の準備を進めて来た。〼〼所
がどうしたわけか悉く計画が壊さ
れ?て実現に至らなかつた、残念
なことである。〼〼テラバード仏教を
日本に持込むことは国内宗派が一
つ増すという程度のものではない
之は日本仏教としては慎重に討議
されねばならぬ問題だ、親善々々
と云う美名と金色のパゴダに幻惑
されては行かない。〼〼この際全日
仏でも国際委員会でも開いて正法
会との関係はかゝる理由で現在の
態度をとつてゐる旨の声明書が発
表すべきだとの声も大分あるよう
だ。〼〼当事者は随分苦心してゐるの
だが只之が単的に表面化されぬ憾
みが全日仏の運営を困難にしてゐ
る所以。〼〼これが一応組織の通信
を終る。